

テーマ1 地域集落×アート×フェスティバル=森づくり!? ～白老で行われる森づくりが目指していること～ 木野 哲也氏 (TOBIU CAMP実行委員会代表) かつて、学び舎だった飛生小学校と周囲の森を拠点に芸術祭が開催されています。そこで作るアートは地域を舞台とした身近なもの、住民に光を当てることができるもので、来場者を受け身の形ではなく、物語を作る側として参加してもらい来場者と共に1つのアートを作っていることがわかりました。	テーマ2 ボードゲーム入門 ～コミュニケーションツールとしての魅力～ 大江 裕子氏 (認定NPO法人芸術と遊び創造協会おもちゃコンサルタントマスター) ボードゲームは無意識のうちに論理的思考、コミュニケーション能力、勝負の楽しさ、自己主張などが遊びながら身につくものです。自分なりのアイデアをいかすことができるため、ゲーム大会や社員研修など様々な場面で活用できます。様々なボードゲームを体験しながら、その魅力を感じることができました。
テーマ3 本当に知ってる? アイスブレイク ～場に合わせた空気の作り方～ 高橋 苗七子 住永 彩花 絹田 瑠香子 (NPO法人ezorock) 緊張感を壊すという意味のアイスブレイク。初めての人同士だけではなく、チームや知っている人同士でも緊張感があるので、普段の会議前などにも活用できるものです。スタッフの準備に10個ほどのアイスブレイクを実施し、最後はグループに分かれ、参加者自身の進行でアイスブレイクを実践しました。	テーマ4 北のクレイジージャーニーシリーズ ～世界の秘境から南極まで見てきたもの～ 奈良 亘氏 (ゲストハウスSappoLodgeオーナー 株式会社GOOD VIBES代表取締役) 世界各地を旅した奈良さん。「遊ぶためのトレーニングや努力」そしてその原動力が「見たいから行く」というのが奈良さんの旅のテーマでした。南極越冬隊時代では、南極までの道のりや現地業務のこと、ペンギンやコケなどの南極の自然について話をメインに、現地の装備と南極の氷を持参し、会場を驚かせていました。
テーマ5 本業とは異なるもう一つの所属 「パラレルキャリア」を考える 國塚 篤郎 (エコモット株式会社 NPO法人ezorock理事) 「パラレルキャリア」とは、本業の他、副業とは異なる複数のキャリアを持つこと。それが人生を豊かにするのではないかとされています。人には生活の場や職場又は学校以外のサードプレイス(第三の居場所)が必要とされ、現にサードプレイスがパラレルキャリアに繋がっている人も多く、全員で意見交換を実施しました。	テーマ6 フリーディスカッションプログラム 崎川 哲一 (NPO法人ezorock) 参加者の関心が高かった、「地域」というキーワードについて、自分達が住む場所を決める理由や住んでいる場所はどうか盛り上げられるかを議論しました。少人数だからこそひとりひとりの生い立ちや思考について、深く時間をかけて話し合うことができ、他の分科会では味わえない参加者同士の関わり合いを楽しみました。
テーマ7 そのとき自分の人生が動いた ～地元に戻るまでの葛藤とその後～ 土谷 悠介氏 (しべつ未来塾代表 地元運送会社代表取締役社長) 池田 貴裕氏 (小樽市産業港湾部商業労政課) 神田 あかり氏 (北海道大学大学院) 八木 一馬氏 (北海道大学) 協力: しべつ未来塾 大学卒業後、地元で就職や活動を行ったゲストに地元に戻るまでのモチベーションの変遷や決め手を伺いました。同世代との繋がりが子育て環境、想いが大切など3人の感じていることを聞いていきました。	テーマ8 これからの社会人に必須! すぐ使える会議のすすめ方講座 橋本 正彦氏 (江別港 代表 NPOファシリテーションきたのわ) 今日、会議を円滑にするうえでファシリテーションは必要不可欠になっています。「決める会議」には共有、発散、収束、決定という4段階があり、進行、書記、時間計測という3つの役割が必要になります。最後には3つの役割や会議のテーマを実際に自分たちで決めて「決める会議」の実践に挑戦しました。
テーマ9 思いだけでは、形にできない ～活動に必要な資金の集め方～ 高橋 優久氏 (北海道道民財団準備会 事務局長 一般社団法人ARCTICA 代表理事) 非営利組織が活動の資金を集める「ファンディング」について基礎から学びました。ポイントは活動の見える化、その具体的な活動内容と資金の使用用途、そしてアウトカム。また、いくつかの非営利組織の動画を視聴し、実際に寄付するのならばどこに寄付するかを参加者が自ら考えて選び、その後各団体の強みやポイントを整理しました。	テーマ10 アイヌの世界に飛び込んだ人生 関根 健司氏 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館職員) アイヌ語を学ぼうとずっと活動を続けてきた関根さん。その原動力にはニュージラントの先住民文化マオリ文化の広まり方へのショックがありました。関根さんの、周りがどうであろうと今自分がやるべきことを精一杯やること、何が自分を動かしているか分からなくてもまずは行動してみようという思いに参加者は心動かされたようでした。
テーマ11 “どうして”から始まる札幌の魅力の伝え方 ～君も今日から街歩き研究者～ 和田 哲氏 (街歩き研究者) 基盤の目の街、札幌。札幌中心街と山鼻地区は垂直に接しておらず、わずかに角度がついています。街ができる過程には、歴史が必ず関与していると述べられていました。後半は、真駒内、市電、藻岩山、中島公園といった札幌のまちを子どもや外国人、市民にガイドするならばというテーマで、グループワークを行いました。	テーマ12 「世界一幸せな国」デンマークを見て、考えること 藤井 柚花氏 (ユースコミュニティデザイン) 高橋 勇造氏 (NPO法人Kacotam 理事長) 「世界一幸せな国」といわれるデンマーク。知的水準よりも個々の能力を最大限に伸ばすことに重きを置いた教育が行われています。日本の教育の現状とデンマークとの差をお話いただき、その後、グループワークとして、生きにくさを感じたことや、理想の社会のあり方について意見を交わしました。

代表の小言

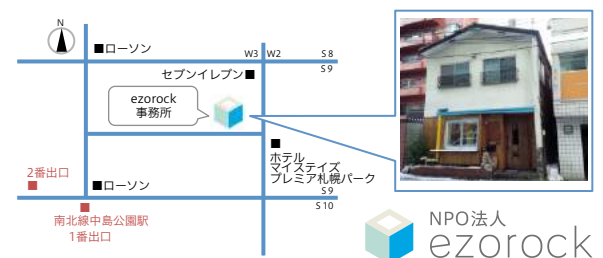
20年という歳月

「NPO」にかかわるなんて、特別な人たちがやっていること、なんてよく言われてきた常識も、もう昔話で、学校や仕事にいきながらNPOへ参加する若者も以前とは比べ物にならないくらいに増えて、そろそろ当たり前のことになりつつあります。

時間はかかりますが、「今の常識が、未来の常識」へと変化は作れるというのを、もっと多くの人に伝えていきたいですね。

さてさて、次の20年はどんな世界になるのか？今から楽しみです。

草野 竹史



Rock The Life! ezorock vol.29



2017年度 活動報告レポート

今月の写真
 全プロジェクトから2017年度の活動写真を集めました。

